

ウム有無



真宗大谷派 源通寺

「中庭」

2013年4月に完成。

人工的ではなく「自然」をテーマとした庭。

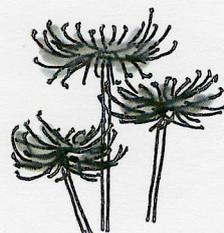
四季を楽しみ、植物や生物から「生死」を感じ取って頂けたらと思います。

中庭にあります長椅子は、改築前に建てていた門柱を再利用したものです。

ひがんえ

彼岸会

一年のうち春秋二度ある彼岸。
お盆は一度しかないのに、なぜ彼岸は二度もあるの？
という疑問があるかもしれません。



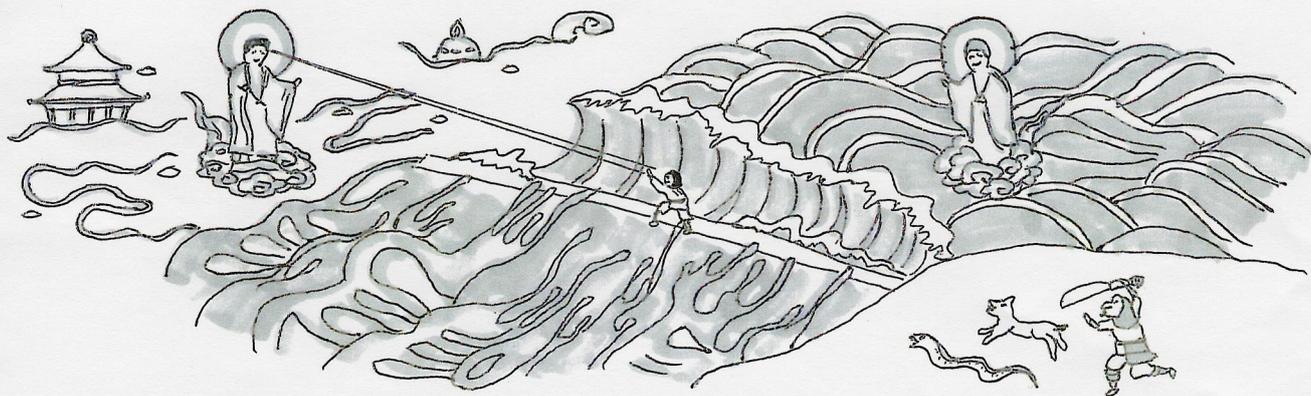
彼岸とは本来、サンスクリット語でパーラミタ（波羅密多）と言い、
到彼岸という意味からきています。

彼の岸に至る。この彼の岸（かのきし）というのは、浄土の
ことを指しています。それに対し、私たちの住む世界を
此の岸（このきし）と呼び、彼岸（ひがん）・此岸（しがん）と分けて呼びます。

彼岸（浄土）は西方浄土と言われ、太陽の沈む西の方角にあると考えられています。
昼と夜の長さが同じであり、太陽が真東から真西に向かうと言われる 春分の日と
秋分の日を中目とした前後各三日の一週間が彼岸会となるのです。

ところで先に述べた「彼岸」と「此岸」、
その関係を絵で表したものがあるのでご紹介します。

『二河白道図（にがびやくどうず）』



左(南)の炎の川は怒り・憎しみ、右(北)の水の川はうがましく欲望を表して
おり、後ろ(東)からは群衆悪獣の追って来、そして真ん中に延びる一本の
白い道。その先(西)に見えるのが阿弥陀様の浄土です。

東南北どこにも行く場所が無く、目の前に唯一あった白道を進んでいって
浄土へ辿り着いた。

念仏一筋に盡かれば、彼岸に至ることができるといふ、七高僧の一人
である善導大師(ぜんどうだいし)が注釈された『観経疏(かんぎょうしよ)』の
中に出てくるお話です。

※『観無量寿経疏(かんむりょうじゆきょうしよ)』又は『観経四帖疏(かんぎょうしよしよ)』

そうぞ
葬儀

「葬儀する？しない？」

最近、多くの方には声を掛けずに少人数で式を行う「家族葬」と呼ばれる形や、式を全く行わずに焼き場に直行し、釜の前で短いお別れをする「直葬」と呼ばれる形が非常に増えてきています。

時代の流れにより、世の中の様々なことが簡略化されていく中で、通夜・葬儀とは何を意味するのか？という疑問が大きく追ってきているように思います。

身近な人の「死」を通し、「生」とは何かを思い、考える。

亡くなる形や、時期は人により違いますが、生きるということの半面には死ぬということが事実としてある。

真宗大谷派の僧侶であり、真宗大学（現・大谷大学）の初代学長であった清沢 満え（きよざわ まんえ）さんの言葉に

「生のみが我等にあらず、死もまた我等なり」

とあります。簡潔にしてインパクトのある言葉です。と言っても、普段生活をしている中で「死」を意識するという事は中々できることではないものです。

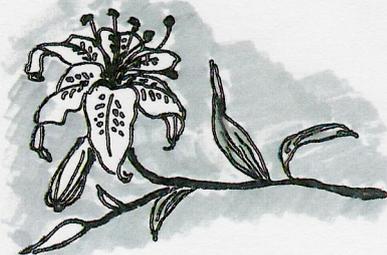
ましてや、「死」を受け入れることは簡単なことではありません。

けれども、その事実を受け止めることは生きる者として大切なことではないでしょうか。

日常のなかで意識できないことを意識する場。

それが通夜・葬儀であり、故人から残された者への大きなメッセージを聞く場ではないかと思えます。

(※詳しくは別紙をご覧ください。)



きよざわ まんえ
清沢 満え

文久3年6月26日<1863年8月10日>

一明治36年<1903年>6月6日

日本の明治期に活躍した僧侶、
哲学者・宗教学家。「信学院釋現談」



源通寺 消防訓練



住職(左)と総代望月肇様の消火訓練の様子

8月23日 源通寺境内にて
中野消防署 東中野出張所の
隊員指導のもと消防訓練を
行いました。

訓練内容は、古聖会館内お手洗い
横にありますAED(自動体外式
除細動器)と消火器の使用
方法についてです。

AEDは最近公共の場で多く目に
するものになりました。

意識不明な方がいた際、AEDを
使用し、ショック(除細動)を与え、
心臓の動きを戻すことを試みる

一般の方も使用可能な医療機器です。電源を入れると音声ガイドが流れるため、むずかしい
操作はいりません。しかし、いざというときに慌ててしまわないように手順をしっかりと教わり
ました。今回の訓練で、知識と技術があれば、人を助けることが私にも可能だということ
がわかりました。

〈設置場所〉 AED … お手洗い横
消火器 … 本堂入口、納骨堂(聞思堂)階段下
お手洗い横、台所入口



タイトル『ウム有無』とは…

むずかしい仏教のことや仏語を「ウムウム」と読んでいただけ
るようにまとめた冊子です。

仏教用語『有無』存在すること、しないこと。

また形あるものとないもの。(有形、無形)

題字 15代住職 釋祐純

発行日 平成25年 9月1日

住所 〒164-0002

発行元 真宗大谷派 源通寺

東京都中野区上高田1-2-7

編集者 釋祐翔

TEL 03(3371)8817

挿し絵 小笠原 沙織

FAX 03(3371)8813

ホームページ 現在作成中(10月開設予定)